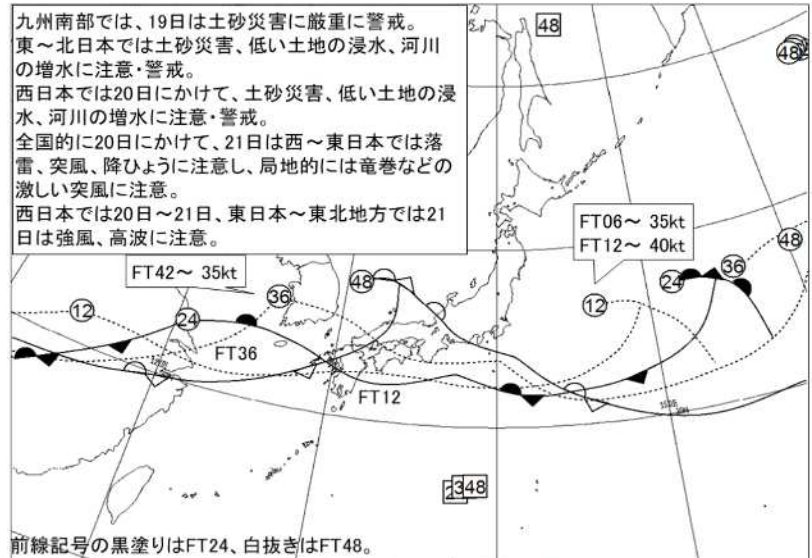


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5760m付近に-12°C以下の寒気を伴ったトラフが北日本を通過しており、衛星水蒸気画像では循環が確認できるが地上の低気圧は東北地方で不明瞭となっている。

② 500hPa 5760～5820mの正渦度極大域に対応した前線上の低気圧が日本の東を東進。また、この低気圧からのびる前線が日本の南から九州南部を通り、中国大陸までのびている。前線周辺にあたる九州南部では大気の状態が非常に不安定となっており、雷を多数検知し、非常に激しい雨を解析している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の寒気を伴ったトラフは、19日は日本の東まで進むが、北日本では500hPa5700～5760mの正渦度帯がかかり上空寒気が残る。また、オホーツク海に中心をもつ高気圧周辺の湿った空気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり局地的に激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では19日は低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、20日にかけて落雷、突風、降ひょうや急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 500hPa 5760～5820m付近のトラフが大陸から進んでくるため、19日朝には前線上の華中で低気圧が発生し、20日には黄海から日本海へ進む。19日は前線が九州付近にほぼ停滞し、その後20日にかけて西日本を北上する。低気圧や前線に向かって下層暖湿気の流れ込みが低気圧の接近とともに強まり、大気の状態が非常に不安定となり激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる範囲が20日にかけて西日本で拡大する。特に九州南部では19日は対流雲が組織化しやすくなることに留意。2項②のトラフは21日は浅まりながら西～東日本を通過。トラフが先行して進むため、日本海の低気圧は21日朝までに前線と切り離されて日本海へ残る。一方前線は本州付近を東南東進し、21日夜には日本の南まで南下。前線通過に伴い東日本でも大気の状態が不安定となり雷を伴って激しい雨が降り、局地的に大雨となる所がある。九州南部では19日は土砂災害に厳重に警戒。西日本では20日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、西日本では21日にかけて、東日本では20日～21日にかけて落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

③ 2項②の前線や低気圧周辺では風が強く吹き波が高く、21日はしける所がある。西日本では20～21日は、東日本～東北地方では21日は強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部、九州北部120mm。② 波浪(明日まで)：九州北部 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。